

地域医療体制の充実を目指して

鹿行地域の医師充足率は茨城県内で最下位であり、その茨城県は全国ワースト2位という大変厳しい状況にあります。

診療体制の充実には、医師の確保が重要な課題となっている現在、4月から常勤医が4名増え、診療体制が強化されたなめがた地域総合病院 清水純一病院長に、「地域医療体制の充実」という内容でお話を伺いました。

診療内容の拡充と

医師の増加について

なめがた地域総合病院は、備えていた検査の機械や入院の部屋など非常に立派なものがあるのに、今まではそれに対しての医師数が少なく、使いこなすことができていません。

現在、系列の土浦協同病院が新病院を建設中であり、所在地もなめがた地域総合病院に近くなります。この病院で受け入れられるものはこちらで受け、高度専門医療の場合はあちらに紹介するというように、連携を強化していきたい。もちろん、こちらでできることを増やしながら、行方市民の皆さんを始め、地域の方々の期待に応えられるよう努力し、地域のお役に立ちたいと思っています。

今年の4月から、新たに循環器内科医2名、膠原病内科医1名、整形外科医1名を常勤医として配置し、医師が24名体制となりました。循環器内科では、新たに血管撮影装置を更新予定です。これにより、早期の心臓疾患の発見もできます。

膠原病内科医が増えたことで、リウマチ疾患の診療体制がさらに強化されました。

そして毎週月曜日、大学病院の医師による泌尿器科の外来診療を増やしました。お年寄りの方からの泌尿器科診療の要望が多かったので、その要望に 대응することができました。このように、少しでも外来を増やすことにより、地域の皆さんがこの病院を利用し



なめがた地域総合病院 清水 純一病院長

ていただきたいと思いますし、地域の医療に貢献したいと思えます。

妊産婦健診の連携強化

5月からは、土浦協同病院の産婦人科と連携強化を図ります。

出産前の妊婦健診はこの病院で、出産するときは土浦協同病院で、そして出産後の健診や赤ちゃんの健診は、またこの病院で行うというシステムです。健診の機械も最新型のものを導入しました。妊婦さんが安心して出産に臨めるようにバックアップしていきます。

なめがた地域総合病院が目指す

これからの地域医療とは

まずは、この病院でできることを増やしていく、非常に専門的なことや高度な医療については土浦協同病院にお願いし、治療が終わったら、またこちらに戻って在宅に復帰するという、地域の総合病院ならではの役目を果たしていくことだと考えます。土浦協同病院とうまく連携していくことが大切です。何でもあちらばかりになつてしまうと、こちらからの距離があるのでお見舞いに行く方も大変だし、患者さんの送迎やご家族も大変ですから、その負担を少しでも減らせるようにしていきたいですね。

地域の皆さんにどれだけ安心安全を提供できるかというのを考えると、土浦協同病院との相互補完、それぞれの機能分担が大切だと思います。また、市の健康増進課と連携して、引き続き健康教室の開催や、市の健診を補完するような形で、市民の皆さんに、病院の健康管理センターを利用した健診なども受けていただきたと考えています。健診の受診率アップにつながる取り組みも地域医療の一つだと思っています。

救急医療の取り組み

循環器内科医が2人増えたことにより、救急医療体制も充実しました。

この地域は心血管障害・脳卒中で亡くなる人が非常に多いです。循環器疾患における死亡率が全国平均1とする、茨城県はその1.2倍、鹿行地域は1.5倍と高い。そのような状況の中、これまで、鹿行地域の人口約28万人に対して循環器内科医はごくわずかしかないという状態でした。そのため、倒れたりしたときに、救急の受け入れがこの辺ではできず、遠方の病院へ搬送されていました。

今般、この病院で循環器内科医の確保ができたので、地域の皆さんの



365日・24時間の安心を目指して救急医療に積極的に取り組んでいきます。

月曜日から金曜日まで、午前中の内科外来の診察時間終了後も、午後9時までは循環器内科医が待機しています。

まずは病気の予防からということ、積極的に健診を受けていただきたいと思いますね。

なめがた地域総合病院の

今後の取り組みについて

医師が増えたことにより、行方市の医療条件が向上してきましたといえます。

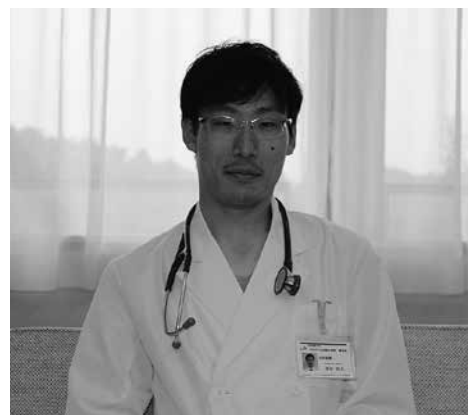
今回は若手の医師も増えました。若手の医師は大学病院や総合病院をローテーションで回ります。なめがた地域総合病院では、院長を中心として、全診療科で若手の医師を積極的に受け入れていきます。

そして、これからは市民の皆さんとの対話を充実させたいですね。医師たちによる音楽会や、市民の皆さんとの意見交換会、シンポジウムなど、市とタイアップしてイベントを企画できればと考えています。

なめがた地域総合病院は、今年で開院15周年を迎えます。皆さんに利用していただき、これからも地域のお役に立つよう、医療を通じて安心安全を提供していきたいと思えます。

新しく赴任された先生にも

お話を伺いました！



循環器内科 濱谷 陸太先生

今年4月に、なめがた地域総合病院に赴任しました。この地域は、心臓疾患で亡くなる方が多いです。このような状況を少しでも改善できるよう、地域の医療に貢献したいと思っています。

また、健康に対する意識も、他の地域と比べて高い方ではなく、体の状態が悪くなつてから病院を受診する方が多いですね。「自分は大丈夫」と思わず、積極的に健診を受けたり、病院受診を促すようなプロモーションが必要ではないかと感じます。

私の診察のモットーは、「患者さんの利益を一番に考える」ということ。このなめがた地域総合病院で、それができればと考えています。

取材を終えて

「行方地域の方は、我慢強いせいか病状が重くなってからでないかと受診をしない」という先生方の言葉が印象的でした。

積極的に健診を受け、体に少しでも異変があったら、すぐに医師の診察を受けることの大切さを実感しました。市としても、より一層、市民の皆さんに健康の意識を高めていきたいと思えます。

今回医師が増えたことにより診療体制が充実したなめがた地域総合病院。これからも、市民の皆さんが安心して生活できるよう、ご協力をお願いしたいと思います。